

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/3階ユニット)

事業所番号	2791600188		
法人名	株式会社 You I		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	大阪府吹田市寿町2丁目26-9		
自己評価作成日	令和5年1月14日	評価結果市町村受理日	令和5年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在入居されている入居者様一人ひとりに寄り添い、その人らしさを大切に尊重し常に利用者本位のケアに努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問介護・居宅介護支援・障害福祉サービス等を運営している㈱ユーアイを事業母体とする当事業所は平成23年5月に開設された。利用者一人ひとりの有する能力を引き出し、生活の中での役割(洗濯物を干す・畳む、食器類の洗い物・拭く)を担い、張り合いと達成感ある支援に、管理者・職員は真摯に取り組んでいる。職員と一緒に季節の手作りの品(貼り絵・折り紙等)を創り、趣味を活かしたぬり絵や折り紙の楽しみ事や、毎日のテレビ体操・長い廊下を活かしての歩行訓練を行い、身体機能低下や認知症の悪化防止と、QOL(生活の質)の安定化に管理者・職員が一丸となり取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 【2ユニット総合外部評価結】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念のオリエンテーションはなされておらず職員は把握できていない。 令和4年8月～管理者変更に伴い新入職員についてはオリエンテーション内の施設理念の説明を行っているが不十分である	職員で考えた「コミュニケーションを大切にともに分かち合う ぶんとん役割 和気あいあい きんじょ付き合い 助け合い」の方針を事務所に掲げ、朝・夕の申し送り時に確認と意識の徹底を図っている。月に一度の全体会議で実践状況について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着と言う意識はあるもののコロナ禍やスタッフ不足の継続により交流は出来ていない状況である	地域行事(夏祭り・盆踊り)の参加やボランティア(紙芝居・歌)の受け入れは現在中止となっている。自治会に加入しているが、昨年8月に管理者の交代と8・12月にコロナ感染者の対応で自治会長・民生委員との顔合わせがなく、今後関わりを推し進めたいとしている。周辺散歩時に地域の人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者に一任している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議が実施出来ておらず実践できていない	運営推進会議構成メンバー参加の下の実質開催や文書での報告を、この一年は行っていない。事業所の取り組み内容、行事・事故報告等を記し、構成メンバーからの意見・要望の収集を行い、サービス向上に活かす取り組み体制を構築したいとしている。	地域包括支援センター・地域の代表者や認知症知見者の参加の下の運営推進会議の再開(コロナ禍で対面での会議が困難な場合は文書)を行い、事業所の具体的な課題を話し合っ、地域の理解と支援を得るよう努めると共に、議事録の開示と参加メンバーへの送付に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者変更やコロナ禍で取り組みが出来ていない	市の福祉指導課や生活支援課に主に電話で連絡を取り合い、事業所の現状を報告し指導・アドバイスを受けている。公的扶助受給者(4名)の諸手続き、物品請求等を行い、市のケースワーカーと2ヶ月に1度状況を共有し、双方向的な協働関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については身体拘束である事は理解している。安全確保の為、常に施錠している。裏口の扉についてはベランダでの日光浴や見守りが出来るのであれば開放している時間を作っている。	身体拘束適正化委員会や研修を通して、内容と弊害についての習熟に努めている。身体拘束適正化指針文書を整え、言動が不適切な場合は管理者が面談を行い、理由や状況を聞き、課題点や利用者の人権保護についての認識を促している。玄関は施錠しているが非常口・リビングに続くベランダは開放し、閉塞感解消に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に身体拘束廃止および虐待防止委員会で話し合いを行っている。また年2回の研修を実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時のオリエンテーションで説明はなされているが不十分であり今後研修等での周知が必要である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者へ一任している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者へ一任している	家族からの意見・要望は訪問時や電話で傾聴しているが、大阪府や吹田市の面会規制があり、聴き取りが難しくなっている。利用者との面会や日常生活の様子を知りたい旨の家族からの要望で、遠方の人や特別な事情の家族に、エレベーター前のホールで間隔を開けての面会の実施に応え、毎月のお便り発行を充実させたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何か事が起これば随時管理者より相談を受けている。	事故防止委員会・感染対策委員会・身体拘束・虐待防止委員会に職員は携わり、運営に関わっている。毎月の全体会議での意見及び日々の気づき・提案は、その都度聞き、一緒に話し合いながら改善に繋げている。モップ等の掃除用具や炊飯器の備品購入、オムツ使用からリハビリパンツとパット併用の変更と細目な誘導の案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に一任している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的なスキルアップ研修を実施している。また今後、他の専門職を招いての研修を検討している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの運営推進会議に参加していたがコロナウィルスの影響により交流機会は難しくなっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報に基づいてケアプランの暫定を作成し、ご家族様に説明、同意をもらっている。また定期更新、入退院などで状態変化があれば都度更新を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話などで管理者およびケアマネジャーから積極的にご家族に話しかけ情報収集している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前情報に基づいてケアプランの暫定を作成し、ご家族様に説明、同意をもらっている。また定期更新、入退院などで状態変化があれば都度更新を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に協働の意識を持ち関係性を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に協働の意識を持ち関係性を構築しており、「何でもさせていただきます」ではなく「ご家族と共に支える」事を基本としている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍やスタッフ不足の継続により外出機会が少なく現状そこまでの支援が不十分である	面会や外出の規制・制限が継続中の現在は、馴染みの人や場所への関心が希薄になっている。人間関係や地域社会との関わりの支援に、天候や体調に配慮しながら、外出の機会を増やしたいとしている。家族同行で墓参りに出かけている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性には終始目配りをしており、必要に応じてスタッフが橋渡しになる様に支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者に一任している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが常に傾聴の姿勢で接するように心掛けている	入居時のフェイスシートを基に日々の関わりの中で声掛け・話し掛けを行い、思いや意向の把握に努めている。リラックスして1対1になれる入浴時に本音での会話が弾み、知りえた情報は生活記録に記入して共有している。利用者は何が好きか、嫌いか、どのような暮らし方が最良かを見極めながら計画作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、本人様、関係者から情報収集を心掛け、把握に努める様行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族や、本人様、関係者から情報収集を心掛け、把握に努める様行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に連携を意識してチームとしてご入居者様が安心して生活できるように努めている	毎月のカンファレンスと6ヶ月に1度のモニタリングを行い、生活記録・介護記録・往診記録を参考に関係者全体で検討した内容の計画作成となっている。短期6ヶ月長期1年の計画作成としているが、身体状態変化時には随時見直している。新・更新計画書の内容は家族に電話で説明し、同意署名・捺印は郵送で対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間体制にて個別記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で多様なサービスの実施が出来ていない状況である		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティア等の地域資源の活用が出来ていない状況である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者の指示に従っている	入居時に同意を得、全員が提携医療機関をかかりつけ医としている。内科・歯科は月2回の訪問診療があり、歯科は希望者が受診している。医師の指示で皮膚科の訪問による受診もある。精神科は外部受診(1名)で職員が代理受診して投薬を受ける。訪問看護師は週1回巡回し往診記録を作成する。柔道整復師の訪問マッサージも週2-3回ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日の健康管理をはじめ管理者及び職員と共に常時連携を取り、早期対応を心掛けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	随時、病院と連携し報告・情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、ターミナル、重度化などは各指針に基づきご家族との話し合いの中で個別の対応になっている	「緊急時の延命処置についての意向」と「重度化に対する指針」とを入居時に示して同意を得よう努めている。その後重度化した時には、医師の意見に従って事業所が家族に説明し、今後についてよく話し合い家族の意向に沿って介護方針を決めていく。看取りの事例は未だない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は迅速に施設長・提携病院と連絡を取り合い対応している 応急処置や一般的救命措置についてはマニュアルを作成し研修をしていく必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災に対しての避難訓練を行っているも、地域との協力体制については未定の状態。	避難訓練(出火・夜間想定)は既に1回は実施済みで、もう1回は3月に実施予定である。訓練では歩ける利用者はベランダか廊下に避難、職員は火元の確認・通報・誘導などを模擬訓練した。非常用備蓄物として飲料水・即席麺・粥・米・コンロなどを備え、4階の居室事業所移転に伴って詰所に生まれる空きスペースに新たに収納する予定である。	事業所は神崎川に近く、ハザードマップでも自然災害の可能性が示されている。建物の構造上垂直避難に困難が予想されるので、日常的にシミュレーションを心がけ安全を図られるよう期待する。避難に際しての地域の援助も不可欠なので地域との連携を今後一層深めて行かれることも期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議等で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけやどのような声掛けを行えばいいのか検討するなど常に心掛けて対応している	法人主導の研修を行い職員は研修報告書を提出する。呼称は〇〇さんを使用し、人生の先輩としての利用者への敬意を持ちながらも同時に日常を共にする仲間としての適切な言葉使いを心がけている。着任後まだ日も浅い管理者だが職員からの厚い信頼の上に立ち、日常的にあるいは特別に声を掛け、気になる点の再考を職員に促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい環境作りや、選択肢のある声掛けを意識することに心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々職員同士声掛け・相談し対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えでの日中と夜間帯のメリハリや、その日に着たい服装が選べるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備に関しては一緒に行う事が出来ない事が多々見られるも、片付け等は入居者と協働して行なっている	業者が配送する調理済みメニューを湯煎して供している。同一メニューでソフト食・ペースト食もあり同様に提供する。利用者は食器拭きや食卓の消毒などを行う。イベント料理・薬膳料理・ご当地グルメと銘打った特別メニューが各々月1回供される。ペビーカステラやクリスマスケーキなど手作りおやつも楽しんでいる。昨10月には、物干し場にスペースを作りお茶会を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の一覧表を作成し、職員同士情報の共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清潔保持に努めており、異常があれば歯医者に相談・施設長へ報告している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2人介助でのトイレ誘導などの工夫を行い、可能な限りオムツ使用時間を減らしトイレでの排泄を実施している	水分摂取量・排泄等は全員の一覧表に記録後、個別ファイルに転記している。トイレ介助は排便時に職員が扉の外で待機する。半数の利用者が布パンツを使用し、職員の検討でこまめなトイレ誘導に挑戦した結果オムツからリハビリパンツ使用へと改善した例もある。夜間はオムツを使用し2～3回のパッド交換で対応し安眠を重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認や水分摂取量、運動量の把握を行い職員同士情報の共有に努めている また必要に応じて内服薬の検討など提携医と連携している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し確実な入浴の実施を行うと共に、希望があれば時間帯など入居者の希望の時間を考慮しての入浴に取り組んでいる	週2回、午前中に入浴し、お湯は毎回変えている。拒否する利用者には、人を変える・時間をずらすなど微妙なタイミングをつかんで入浴を実現している。同性介助は希望を取り入れている。入浴は職員1名利用者1名という好適な場なので、楽しく会話をしながら利用者の意向をつかむ好機としている。入浴剤で香りを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠者に対しては可能限りスタッフが寄り添ったり常に声掛けを行い様子を安心して休んでもらえるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し症状の変化等や疑問があれば施設長へ報告を行い提携医や薬剤師に相談を行っている。 また誤薬防止に努め確実な服薬が出来るように個別で対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事のほかに余暇の充実を目的として個別のアクティビティを実施。状況により臨機応変な対応を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出機会が減少しているが管理者と家族とで極力希望をかなえられるよう努めている。	散歩は事業所の周囲を歩く程度だが天候が許せばなるべく実施している。散歩が無理な時も、リビングから出られるベランダや物干し場のベランダに出て、外気浴は毎日欠かさず行っている。昨10月には、近隣の公民館の作品展に徒歩で出かけ、外出を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し、現金を所持して頂いている方もおられ、職員同士情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡時には適宜入居者様も話が出来るように努めている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間で居心地の良い環境を検討し安心して生活できる空間つくりに取り組んでいる。また生活感や季節感等はポスターや貼り絵を用いて感じて頂いている。	廊下には、利用者が作成した桜の木や花火の壁飾りが貼られている。リビングでは、毎朝テレビ体操を行い、壁に貼った大きなカレンダーで今日が何日であるかを確認する。天窓と非常口を開放して換気し、加湿器は2台稼働している。食後に清掃を行うが、非常勤の生活補助員勤務時は清掃・調理などで職員を助ける。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内のハード面を考慮して可能な限り一人ひとりが落ち着ける環境作りに取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考慮しながら本人の意思を尊重し、馴染みの空間であるように努めている	居室にはエアコン・ベッド・カーテン・照明器具・洋服箆笥が備わっている。一日も早く事業所を自宅と思いつろいで生活してもらいたいと思い、入居時に愛用のコップや茶碗の持ちこみを勧めている。利用者は、時計・アルバム・テレビ・箆笥・位牌・お鈴など馴染みの品を持ち込んで自分なりの暮らしを送っている。清掃は利用者と職員で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど入居者様が分かりやすいように工夫したり、職員間で意見を出し合いながら環境整備に努めている		